



アジア館とアフリカ館の建設

酒井 来年12月完成予定のアジア館は、ユキヒヨウやアムールトラを寒帯、レッサーパンダを高山、シシオザルやマレーバクを熱帯雨林と生息環境別にゾーン分けして展示します。



▲アジア館予想図

アフリカ館は、札幌市立大学と協働で事業計画を検討中ですが、ライオンやキリン、カバなどをミニサファリのように配置する予定です。どちらの館も野生に近い環境で飼育し、動物のストレスを軽減する「環境エンリッチメント」に配慮したつくりにする計画です。

金田 今まではサルの仲間、クマの仲間など分類学的な展示でした。動物地理学で分類すると動物同士の関係や生息環境について理解しやすいので、世界的には展示方法の主流になっていますよ。

ゾウの展示ゾウさん

酒井 市長が公約で「ゾウの導入について検討する」と表明しています。現在、札幌と環境が似ているヨーロッパの動物園を参考に、飼育方法や動物舎の規模などを調査中です。

酒井裕司



さかい ゆうじ

1955年（昭和30年）生まれ。平成21年4月から円山動物園12代目園長となる。経済産業省情報政策課に出身した経験もありIT政策に明るい。園スタッフとアイデアを出し合い、円山動物園のさらなる魅力アップを目指す。

来年度には市民アンケートを行うなど、今後ゾウを新たに展示するかどうか結論を出さなければいけないと考えています。

金田 ゾウ舎には何十億という費用が掛かるでしょうが、ゾウの居ない動物園は寂しい気がしますね。

動物園のご近所付き合い

金田 私の家は動物園の西門から300メートルのところなので、たまに動物の鳴き声が聞こえます。住宅街の中に動物園があるという環境の豊かさが感じられますね。

酒井 近隣の方々には駐車場の車列などでご迷惑をお掛けすることもありますが、いつも大変申し訳なく思っています。

近くの大倉山小学校や円山小学校などには頻繁に校外学習で利用していただいております。

また、年間パスポートのおかげか、ウオーキングやジョギングのコースとして園内を活用されているご近所の方も多く、地域に愛されるありがたさを実感しています。

今後は、円山原生林を背景に生かして、地下鉄円山公園駅から動物園までの道のりを楽しめる遊歩道の整備も行いたいですね。

動物園では「こ」を見て！

金田 午前9時の開園直後は、寝室



から広い放飼場に出てきた動物が元気に動き回り、高いパフォーマンスを見せてくれます。また、餌を食べる姿はどの動物も興味深いものです。

酒井 餌やり時刻は園内の表示やホームページで確認できます。ライオンやトラの「ワイルドタイム」はいつも大人気ですよ。

あと、ホッキョクグマやユキヒヨウ、キリン、オオカミなど愛らしい赤ちゃんを見に来て欲しいですね。

金田 飼育員による手書き看板も親しみが湧いて良いですね。

酒井 これからも来園者に喜んでいただけるよう、いろいろな取り組みをしていきたいと思っています。



「4月にオープンした『は虫類・両生類館』のBGMをサッポロ・シティ・ジャズと連動してジャズにしています。展示照明の感じがマッチするんですよ」と酒井園長。

動物園には大人の楽しみもたくさんあります。今月号の中央7ページでは、マルヤマンが夏のイベント「夜の動物園」を紹介しています。